

新発電所、コスト削減と即応性を向上 *Yokota cuts costs, boosts readiness with new power plant*

November 7, 2023

By Staff Sgt. Spencer Tobler
374th Airlift Wing Public Affairs

11月3日、第374空輸航空団の空兵たちは、横田基地に建設された新発電所の完成披露を記念するリボンカット式典を行った。

この熱電併給発電所は、2020年のシュナイダーエレクトリック社との省エネパフォーマンス契約に基づいて建設された。完成した発電所は、横田基地のエネルギー制御システムを近代化・拡張し、二酸化炭素排出量を削減するほか、地元の電力網に頼ることなく独立した電力供給を実現する。

「新発電所は、米国防総省が運用する当基地を、能力、レジリエンス、効率の面で高めるものである」と第374空輸航空団司令官アンドリュー・ラダン大佐は述べた。「これまでは日本の電力網から供給される電力のみを頼り、旧式の制御システムが使われていた。今日、独立した電力供給能力の深化を図り、重要な使命を担う当基地のレジリエンスが強化された」

この契約は、国防総省がこれまでに結んだ契約の中で、特に規模の大きい、レジリエンスをベースにしたパフォーマンス契約である。新発電所は、独立した電力網として機能することに加え、契約期間中に4億600万ドル以上に相当するエネルギーの節約の保証を見込んでおり、空軍省の持続可能なエネルギーの開発と国防の確保に対する取り組みを示すものだ。

「この契約の過程において、基地全体でさまざまな省エネ対策を実施してきた」と第374施設中隊エンジニアリング小隊長メアリー・バーフィールド氏は語り、「基地コミュニティの生活の質を向上させるため、あらゆる施設の改善に絶えず取り組んでいる」と述べた。

ラダン大佐は、この発電所は同航空団にとって世界の安全保障と繁栄を支える革新的なソリューションとなることに触れた。

「このプロジェクトは、革新的なエネルギー・ソリューションの力、そして米軍の軍事力の証である」「米国と世界の同盟国の国益を守っていくための一助となるだろう」とラダン大佐は述べた。

